

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和7年 3月 1日

事業所名 キッズスタジオ オリーブの木ST.2

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		物を置かず、見渡せるようにしている。	クールダウンスペースを参考する。
	2	職員の配置数は適切である	○		規則に決められた職員を配置している。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○	トイレ以外はバリアフリー。	トイレのみ段差があるので、今後スロープにするのか検討中。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		毎日のスタッフ会議を行っている。チェックリストを用いて定期的な会議も行い改善策を考え実行し検討する場を作っている。	定期的に会議を行い、スタッフが全員参加できるように日程調整を行っていく。出席できなかったスタッフには、議事録、又はLINEなどで会議で決まったことを共有するようにしている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		アンケートに書かれた要望や意向を把握し、反映した活動になるよう計画し実行しています。	保護者に対する発信をより積極的に増やしていけるようにSNSなど活用して発信している。会報誌も発行していく。ホームページもリニューアルして情報共有を深めていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		HPと事業所に提示している。	公開した際には、保護者にLINEもしくはSNSにて通知する。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	外部講師による研修を行い、評価結果を業務改善につなげている。	外部講師による研修を役職に応じて計画を立てている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		職員の資質向上のために、事業所内では定例研修(月1回)を行い、チェックリストを用いて評価をしている。事業所外の研修については、報告会も行っている。	研修ソフトを導入した。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		日々の行動を細かく観察する	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		アセスメントの研修を行い、標準化されたアセスメントツールを使用している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		児童の様子を見ながらチームで話し合う。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		学習、運動、食育、芸術、個別でできる社会活動と多方面に渡るプログラムを実施。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		療育時間により、児童の集中力、持続力を観察しながら内容は臨機応変に対応している。	個人差があり難しい面も改善する。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	○			希望としては個別活動を取り入れたい。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		非常勤スタッフには分かりやすく細かく伝える。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		必要なこと、気付いた点は毎は共有している。	毎は行うよう努力する。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		スタッフ全員で児童を細かく観察している。	
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		少なくとも半年に一度のモニタリングを継続している。	
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	○		自立支援、日常生活の充実の為の活動、創作活動、余暇の提供は組み合わせて支援を行っています。 日々の取り組みの成果を発揮する場と地域交流の機会として盲導犬チャリティーコンサート、広地区合唱祭、レガレミュージックフェスティバルに参加しました。	
関係機関や保護者との連携	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	21 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○		出来る限りの対応はしている。	より細やかな対応をする。
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		ケアが必要な子どもを受け入れる場合は体制を整える。
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		相談専門員を通して情報共有している。	要望があれば対応する。
	24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○	今まで事例がない。	卒業生には必要な対応をする。
	25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		個別に専門家に連絡をとっている。	
	26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		今後交流する機会を作りたい。
	27 自立支援協議会等へ積極的に参加している	○		可能な限り参加している	
	28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		保護者にLINEを通して報告。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		今後取り組む。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		必要に応じて行っている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		回数は少ないが保護者懇談会は行っている。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		できる範囲で行っている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		行事予定やセミナーの案内などお知らせしている。	
	35	個人情報に十分注意している	○			
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		イベント時において地域住民にご参加頂いた。	
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		職員は周知している。	保護者が周知されるよう対応する。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		同じ訓練を一週間続けて少なくとも一回は訓練に参加できるよう配慮した。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		契約時に説明している。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		緊急連絡先等、必要な情報をスタッフルームに貼付	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		○	ヒヤリハット事例集はまだ作成できていないが、スタッフ会議で周知している。	専門家から指示をもらいながら事例集を作成していく。